

2014年産チリレーズン市況



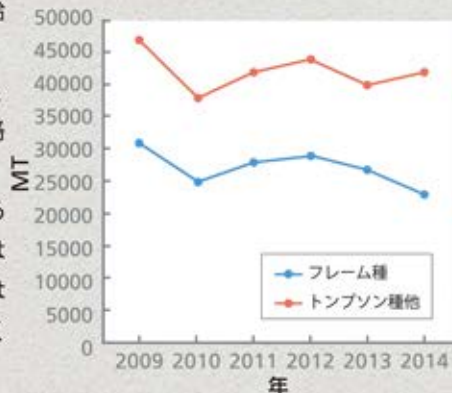
2014年産チリレーズンは、前年に引き続き、ジャンボサイズの供給が非常にタイトな状況となっています。

チリ産レーズンは、フレッシュグレープ用の出荷を優先させ、残った分がレーズンとして加工されるため、フレッシュ市場の価格動向によって毎年の集荷量が左右されます。

2014年産は、全体的な収穫量は前年比微減と予想されているものの、依然としてフレッシュグレープの引き合いが強く、今期はフレッシュの買付価格が高かったとの状況です。そのため、各農家はフレッシュ用の出荷を優先させ、レーズン用の大粒サイズが少なくなっています。

また、一部の栽培地域で降雨量が少なく、実が小粒になった状況から、ジャンボサイズが少なく、ミディアムサイズが多い傾向となりました。

輸送に不向きなフレーム種を栽培している農家は年々減少し、トンブソン種や他の作物に転作が進んでいます。



収穫量推移

	フレーム種	トンブソン種他	計
2009年	31,000	47,000	78,000
2010年	25,000	38,000	63,000
2011年	28,000	42,200	70,200
2012年	29,000	44,600	73,600
2013年	27,000	40,000	67,000
2014年	23,000~25,000	42,000~45,000	65,000~70,000